

目 次

I 古墳時代の馬	1
1. 善光寺平の馬具	2
2. 下伊那地方の馬具	9
3. 埋葬された馬	13
4. 埴輪にみる馬	14
II 東山道と馬	16
1. 古東山道と荒ぶる峠の神	16
2. 東山道と駅制	18
III 信濃の牧	20
1. 『延喜式』にみる御牧（勅旨牧）	20
2. 御牧からの貢馬	22
IV 武士と馬	22
1. 合戦絵巻にみる馬	22
2. 馬 装	24
V 馬と信仰	27
1. 犠牲馬と祈り	27
2. 形 代	27
3. 絵馬の奉納	29
4. 路傍の守護神—馬頭観音—	31
VI 街道と馬	35
1. 街道の整備と宿場	35
2. 手馬・中馬の発達	41
VII 暮らしの中の馬	52
1. 馬と農家	52
2. 農作業と馬	56
3. 運 搬	61
4. ワラウマヒキ—年中行事—	62
5. 雪 形	64
展示資料目録	65
引用・参考文献	68
協力者一覧	71

例 言

- 1 本書は第24回特別展「信濃の馬」の展示解説として作成しました。
- 2 紙面の都合で、展示資料のうち割愛させていただいたものもあり、ご好意に添えなかった点をお詫び致します。
- 3 本書を作成するにあたって、多くの書籍から図や表を転載させていただきました。出典の文献を〈文〇〉で巻末の引用、参考文献の番号で示しました。
- 4 本書の編集執筆は山口明、図版作成は原田和彦・前島卓が担当しました。

開催にあたって

山国信州では古代より国営の牧場が数多く設置されるなど東国の中でもとりわけ良馬産出の地として卓越した位置を占めていました。更に近世になると山国という特質を生かした「手馬」や特殊な輸送機関の「中馬」が盛んに行われ、地場産業の発達や流通経済の上に多大な役割を果たしてきました。

また、これまでの私たちの暮らしの中では牛より馬が多く用いられてきました。農家の中の馬屋、厩肥（堆肥）の利用、犁や馬鍬による馬耕、馬の背による運搬など日々の生活にとって馬は欠かせないものであり、家族同様の扱いでした。従って、農民は馬と共に豊作を祈り、馬に感謝したのでした。

馬は古くから神様の乗り物だと考えられています。神社に見られる「神馬像」はその一例です。北信・東信地方などでは2月8日に道祖神祭りと習合してワラウマヒキが行われます。この日に神様が旅立つ乗り代とも考えられています。また神・仏に絵馬を奉納する祈りの形態も信濃に広くみられるところです。

このように古代より近代の長きにわたって、馬は私たちと深く関わりを持ち、信州の地域文化を育む上にも大きな役割を果たしました。

日本列島を概観した時、東日本は馬産地域、西日本は牛産地域と言われます。この展示を通じて、こうした東日本域の中で「信濃の馬」文化が果してきた歴史上の意義を深く理解され、改めて山国信州の地域性と未来への展望を考える機会にさせていただきたいと思います。

長野市立博物館長